

NOIION² LV1 CLASSIC



クイックスタートガイド



安全と注意事項

- 以下の説明をお読みください。
- 以下の指示をお守りください。
- すべての警告にご注意ください。
- すべての指示を遵守してください。

ミキシングコンソールとご自身を保護するために

- 換気口をふさがないこと。
- ファンの開口部を塞がないでください。
- 底の開口部をふさがないでください。
- コンソールを不安定な場所に置かないでください。
- コンソールを水の近くで使用しないでください。表面や開口部に液体をこぼさないでください。
- 本機の電源プラグは、地域の規格に準拠したアース端子付きのコンセントにのみ差し込んでください。アースピンは絶対に抜かないでください。
- コントロール面に重いものを置いたり、鋭利なもので表面やタッチスクリーンを傷つけたり、乱暴な扱いや振動を与えないようにしてください。
- 液体や塵埃による損傷から装置を保護してください。ミキサーを長時間使用しないときは、カバーをかけてください。
- 火災や感電の危険を避けるため、コンソールを雨や湿気にさらさないでください。コンソールの上に花瓶など、液体の入ったものを置かないでください。
- 落雷時や長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

動作環境に注意を払う

- コンソールを直射日光の当たる場所に置かないでください
- ラジエーター、熱抵抗器、ストーブ、その他の熱を発生する機器(アンプを含む)などの熱源の近くに設置しないでください。
- 氷点下で保管されていた場合は、会場で使用する前に通常の使用温度になるまで時間をおいてください。eMotion LV1 Classicの推奨使用温度は5～35°Cです。
- 極端な暑さの中での機器の使用は避けてください。ミキサーの換気口が塞がれていないこと、および装置の周囲に十分な空気の流れがあることを確認してください。

EMOTION LV1 CLASSICを美しく保つ

- コンソールの清掃は、乾いた布でのみ行ってください。
- 化学薬品、研磨剤、溶剤は使用しないでください。フェーダーへのスプレー・クリーナーの使用は避けてください。
- スクリーンのクリーニングには、タッチスクリーン用として承認された製品のみを使用してください。
- コンソールの上に裸火(火のついたロウソクやタバコなど)を置かないでください。

サービス

本機にはユーザーが修理できる部品は含まれていません。すべての修理は、Wavesの正規販売店を通じて、資格を持つサービスエンジニアにご依頼ください。コンソールへの液体の侵入、物の落下、雨や湿気、正常動作しない、本体の落下など、あらゆるコンソールの損傷は、修理が必要となります。

Wavesは許可のないメンテナンス、修理、改造によって生じた損害について責任を負いません。

eMotion LV1 Classic

ライブ・ミキシング・コンソール

はじめに

eMotion LV1 Classicは、フロント・オブ・ハウス、モニター、ブロードキャストなど、ライブ・サウンド用のミキシング・コンソールです。64のミキサーチャンネルと16のアナログI/Oチャンネルを内蔵しており、SoundGridインターフェイスを使って簡単にI/Oチャンネルを拡張できます。超低システム・レイテンシーと比類のないオーディオ・クオリティを維持しながら、チャンネルまたはバスごとに最大8つのプラグインをホストできます。

eMotion LV1 Classicは、業界をリードする音質、シームレスなプラグイン統合、フルサイズのみキシングコンソールのすべての機能を提供します。



eMotion LV1 Classic へようこそ.....	6
主な機能.....	6
eMotion LV1 Classic 同梱物内容.....	7
接続.....	8
リアパネル.....	8
フロントパネル.....	8
コントロール.....	9
フェーダー.....	9
タッチスクリーン.....	10
ミキサーの基本操作.....	11
スタートアップ/シャットダウン.....	11
ファーストビュー.....	11
操作方法.....	14
プラグインを使ったチャンネルプロセッシング.....	14
Main Channel Processingをコントロールする.....	15
プロセッシングの追加.....	16
Auxセンドの設定と調整.....	17
フェーダーでセンドを使用する.....	18
入出力パッチングの変更.....	19
ステージボックスの追加.....	20
セッションとシーン(スナップショット)の管理.....	21
ミキサーのカスタマイズ.....	22
さらに詳しく.....	23
主な仕様と機能.....	24

eMotion LV1 Classicへようこそ

主な特徴

- 64ステレオ/モノ入力チャンネル、44バス/リターン・チャンネル
- 16個のDCAフェーダー、8個のミュート・グループ、18個のユーザー割り当て可能なショートカット・キー
- 16 Waves Signature プリアンプ、12ライン出力
- モニターAUX 16系統、FX AUX 8系統(ステレオ/モノ)、オーディオグループ8系統(L/R/C/モノ)、マトリクス8系統(ステレオ/モノ)
- 16+1モーターフェーダーと多目的エンコーダー
- 各チャンネルに最大8つのSoundGrid対応プラグインをインサート可能。
- eMotion LV1 Classicのプロセッサーには、業界をリードするEQ、ダイナミクス、リアルタイムのボーカルピッチ補正、ダイナミックEQ、フィードバック除去、リバーブとディレイなどが含まれています。
- 内部低レイテンシーIntelベースWaves SoundGrid DSPサーバー
- I/Oやサーバーを簡単に追加し、他のeMotion LV1システムと統合することができます。
- デュガン・スピーチ・オートミキサー(オプション)
- 臨場感あふれるインイヤーモニターeMo IEM(オプション)
- リモート・モバイル/タブレット・アプリケーションあり。
- 詳細は巻末の eMotion LV1 Classic 仕様ページをご参照ください。



eMotion LV1 Classic 同梱物内容

eMotion LV1 Classic 64 チャンネルミキシングコンソール本体

電源ケーブル x2

説明書

eMotion LV1 Classicは以下のプロセッサを収録しています。

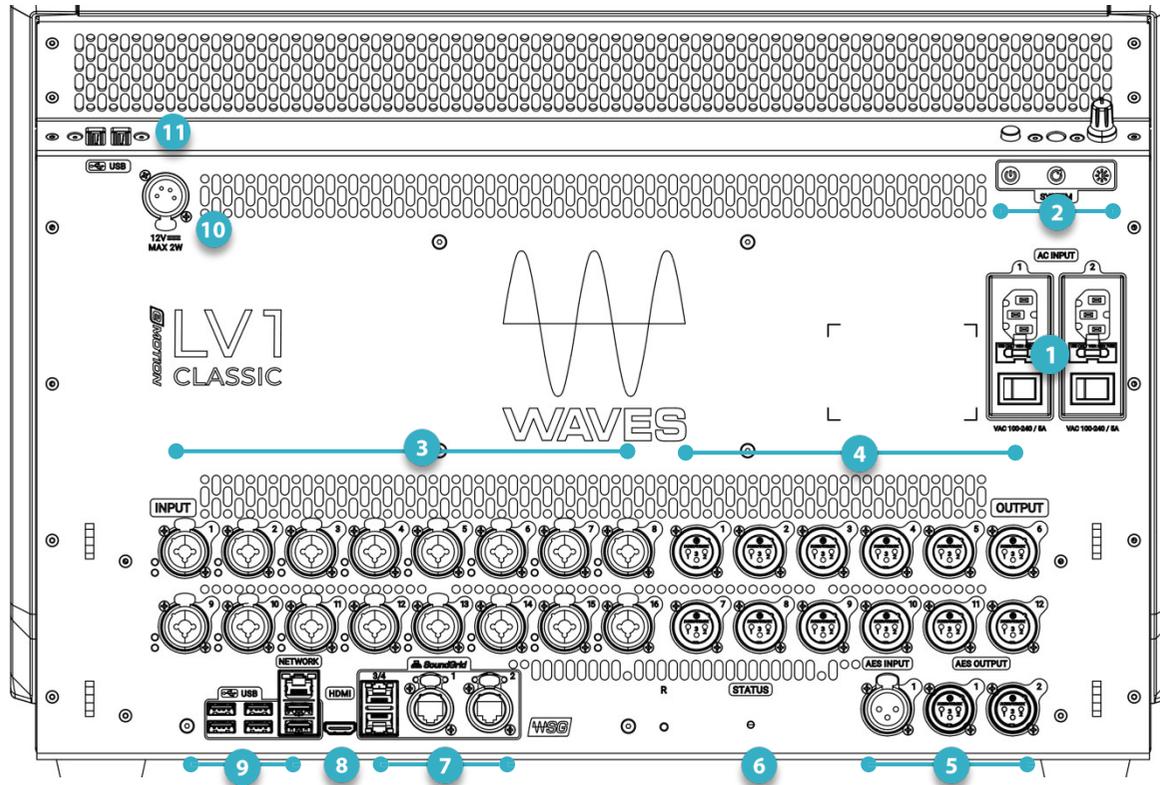
Doubler	Magma Tube Channel Strip
eMo D5 Dynamics	Renaissance Bass
eMo F2 Filter	Renaissance Comp
eMo Generator	Renaissance Reverb
eMo Q4 Equalizer	Primary Source Expander
F6 Floating-Band Dynamic	True Verb
EQ GEQ Graphic Equalizer	Waves Tune Real-Time
GTR3	X-FDBK
H-Delay Hybrid Reverb	

追加プラグインはWaves Live永続プラグインバンドルでご利用いただけます。またWaves Creative AccessサブスクリプションでWavesプラグインカタログ全体をご利用いただけます。詳細はwww.waves.comまで。

コネクション

リアパネル

ヘッドフォンを除くすべての接続はリアパネルで行います。



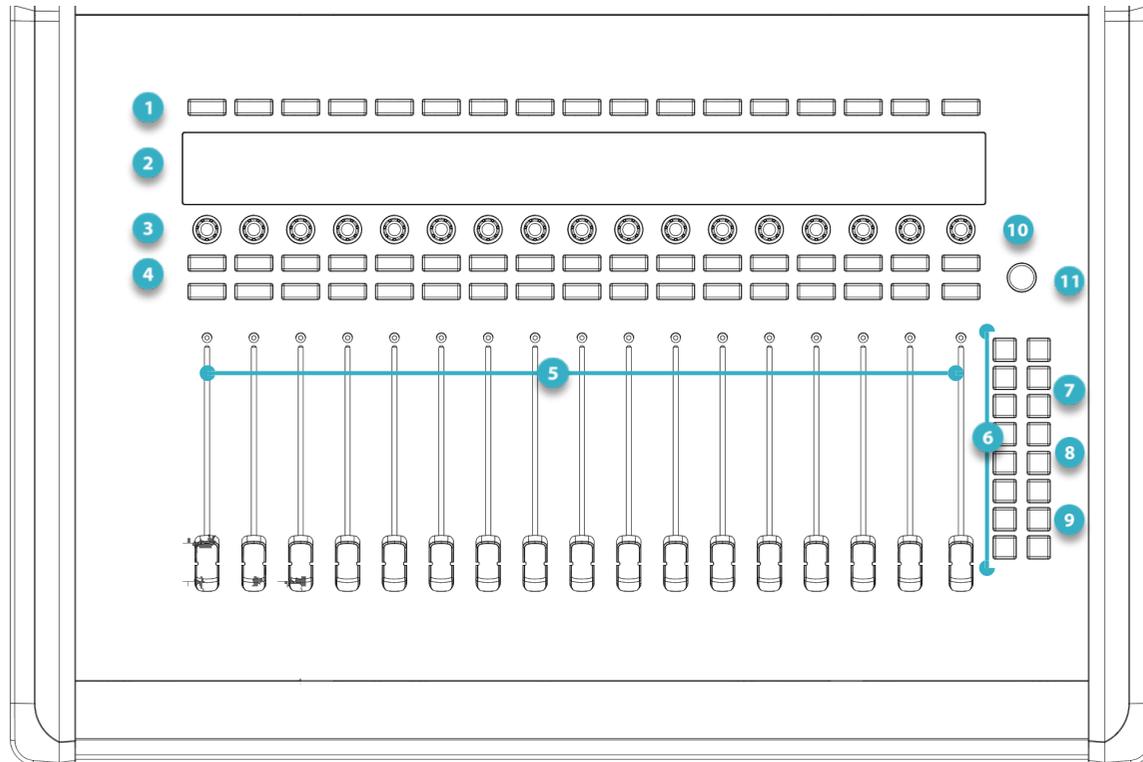
- 1 メイン電源115V/230V、50/60Hz、PSUオン/オフ
- 2 起動/終了・コンソールリセット・明るさ調整
- 3 マイク/ライン入力 x16
- 4 アナログ出力×12
- 5 AES入出力
- 6 I/Oステータスランプ(内部接続)
- 7 SoundGridネットワークポート(etherCON ×2、RJ-45×2)
- 8 外部ディスプレイ用HDMI
- 9 USBポート×6、ネットワーク接続 ランプ用
- 10 XLR4電源コネクタ
- 11 USBポート×2

フロントパネル

TRS1/4 "ヘッドフォン端子×1、TRS1/8 "ヘッドフォン端子×1、ヘッドフォンボリュームコントロール

コントロール

フェーダー



- 1 チャンネル選択ボタン
UserボタンのクリックでChannelキー(デフォルト)とユーザー割り当てキーを切り替え
- 2 4行落書きストリップ
- 3 ロータリーエンコーダ
パン、ゲイン、プラグインマッピングのコントロール
- 4 ソロ/ミュート
- 5 16+1 10mmモーターフェーダー
- 6 ミキサー レイヤー1-8セクター
- 7 エンコーダ・モード
パン、ゲイン、プラグイン編集モードを選択
- 8 ショートカット(ユーザー割り当て可能)
- 9 フェーダー・オルタナティブ・モード
カスタム/スピル/センド・オン・フェーダー
- 10 タッチ&ターン
選択したコントロールにマップし簡単にアクセス
- 11 テンポ・タップ・パッド

タッチスクリーン

eMotion LV1 Classicは、主にタッチスクリーンのインターフェイスで操作します。画面はウィンドウ、ページ(タブ)、セクションで構成されています。ウィンドウは最も基本的な構成で、各ウィンドウは特定の処理、ルーティング、または構成を提供します。選択されたチャンネル名とプリセット・メニューはトップ・バーの左側に表示されます。シーン・コントロールとシステム・ステータス・インジケータは右側にあります。

ディスプレイ上部のタブからウィンドウを選択します。



Mixer1	複数のチャンネルを広範囲にコントロールできるタッチスクリーン・フェーダー・バンク。
Mixer2	
Channel	選択したチャンネルを完全にコントロールします。これには、チャンネルのインプット、プラグイン、AUXモニター、AUX FXセンド、アウトプットのアサイン、マトリックス、リンキング、ディレイ、ミュートグループなどのアサインが含まれます。
Patch	シーンとセッションを管理し、ファンクション、チャンネル、バスのリコールセーフを設定します。
View	ミキサーへの、ミキサーからの、ミキサー内でのパッチングを設定します。また、SoundGridネットワーク上のデバイス間の接続を設定し、ディレイグループを設定します。
Setup	ミキサー全体の設定とユーザー設定を行います。System Inventory ページでは、I/O デバイスとサーバーをミキサーにアサインします。

ミキサーの基本操作

スタートアップ/シャットダウン

リアパネル上部にある "ソフト" 電源スイッチでLV1 Classicの電源を入れます。

LV1 Classicを安全にシャットダウンするには、「ソフト」電源スイッチを5秒間押し続けます。または、Setupウィンドウの左下にある "Shut Down" をクリックします。すべてのコンポーネントが完全にシャットダウンするまで数秒かかる場合があります。

各メインコネクタのスイッチで冗長電源のオン/オフを切り替えられますが、コンソールの電源は入りません。

ファーストビュー



デフォルトでeMotion LV1 Classicは **Mixer 1 Window** を表示します。ここでは、プリアンプ、パン、チャンネルゲイン、ミキサーモード、Aux send、ルーティング、プラグイン処理をコントロールすることができます。トップバーからは他のコントロールとコンフィギュレーション・オプションに素早くアクセスできます。

左の例は Channels 1-16 レイヤーの Input モードです。ここではマイクプリアンプとチャンネルトリムを操作できます。

フェーダー・バンク

チャンネルを選択するには、チャンネルストリップ上部の Channel Select ボタンを押します(または対応する フェーダーをタッチします)。各チャンネルの名称は、そのスクリブルストリップに表示されます。

ストリップ上部にある白いバーに選択されたチャンネルが表示されます。



チャンネルストリップ上部のノブの機能(Pan、Gain、Edit)を選択するには、**Encoders Mode** ボタンを使用します。*Edit* を選択すると、各エンコーダーにプラグインコントロールがアサインされ、パラメータ名と値がスクリブルストリップに表示されます。



ミキサーレイヤーを選択します。eMotion LV1 Classic ミキサーはレイヤーで構成され、各レイヤーはチャンネル、ルーティング、プロセッシング・オプションの個別ビューを提供します。

- **Ch 1-16、Ch 17-32、Ch 33-48、Ch 49-64:** すべてのミキサー・チャンネルをページごとに16チャンネルで表示およびコントロール
- **GRP/FX、モニター:** Auxチャンネルの表示およびコントロール
- **Masters:** 出力ミックス(LR/Center/Middle)、キュー、トークバック、マトリックスをコントロール
- **Link/DCA:** オーディオを通さない、リンクグループとDCAのコントロールのみのレイヤー
- **Custom:** 任意のチャンネルでレイヤーを構成可能なビュー
- **Spill:** 選択したリンクグループ内のすべてのチャンネルを表示

タッチスクリーン:

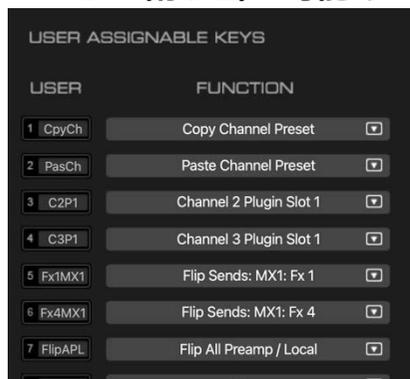


ミキサーの**Modes**は、選択したミキサーレイヤーでどのような処理やルーティングを行うかを設定します(モード選択パネルは、どのビューからも見えます)。

- **Input:** ゲインおよびプリアンプをコントロール
- **Dyn/EQ:** チャンネルごとにアサインされたダイナミクスとEQプロセッサの概要を表示
- **EFX、MON:** プロセッシングやモニター用の Aux センドをコントロール
- **Route:** 内部ルーティング設定を表示
- **Channel:** 選択したチャンネルの全設定を表示

設定画面

ユーザー割り当て可能キーの作成(Setupウィンドウ)



LV1 の機能にユーザー割り当て可能なキーを作成し、タッチスクリーンのミキサー・ウィンドウまたはフェーダー・バンクからトリガーすることができます。

Setup ウィンドウの UI Settings ページでコマンドを割り当てます。

チャンネルをミュートグループ、グループ、マトリックス、リンクにアサインする(Channelウィンドウ)



これらのグループでは、選択したチャンネルのミュート、ミキサーチャンネルのルーティング、チャンネルルーティングの出力パスへの設定、複数チャンネルのフェーダーのリンクといった操作が可能です。

もちろん、多くの可能性とツールが搭載されていますが、ここまでのガイドでもすぐに使い始めることができるでしょう。次の「操作方法」セクションでは、コンソールの具体的な使用例を紹介します。

操作方法

プラグインを使ってチャンネルを処理する



各ミキサー・チャンネルには3つの必須プラグインが用意されています:

eMo Q4 4-band equalizer; eMo D5 dynamics processor; eMo F2 HP/LF filters

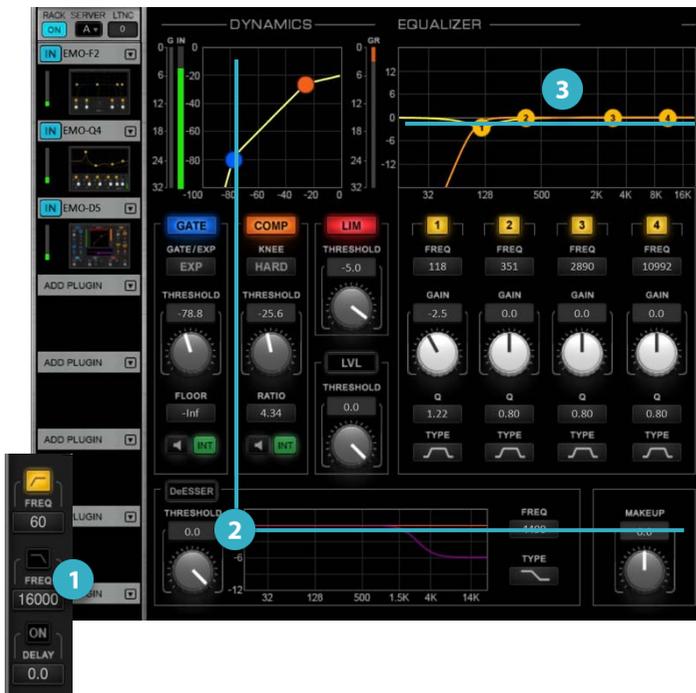
プラグインはチャンネルウィンドウまたはミキサーウィンドウからアクセスできます。この例では、ミキサーから始めます。

- 1 ミキサーレイヤーにプラグインを表示するには、**Rack**モードを選択し、処理したいチャンネルを選択します。
- 2 プラグインのプロセッシングペインは、ミキサーウィンドウで**プラグイン名アイコン**をクリックすることでチャンネルウィンドウにプラグインが表示されます。ここでは、チャンネル1のeMo Q4 4-band equalizerを開いています。
- 3 プラグインが表示された状態であれば、フェーダーバンクでもプラグインのパラメーターをコントロールできます。エンコーダーモードセクションでEditをクリックすると、プラグインのコントロールがチャンネルエンコーダーにマッピングされます。



Main Channel Processingをコントロールする

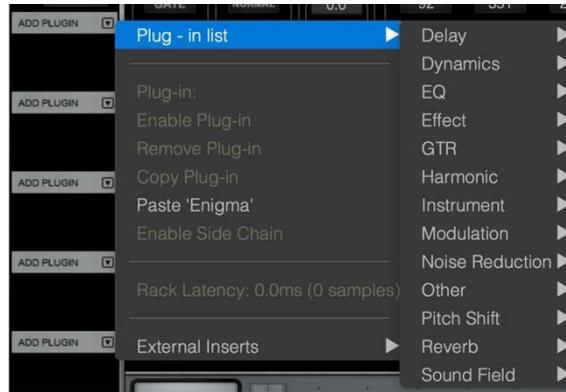
3つのeMoプラグインは、Main Channel Processingビューにまとめられています。これにより、これらのプラグインをインタラクティブに操作することができます。いずれかのeMoプラグインを表示する場合、ウィンドウ左上のBack to Mainボタンをクリックすると、Mainビューに戻ります。



- 1 Filters:** (左Inputパネル内): 18dB/Octのロールオフを持つ2バンド ハイパス/ローパスフィルターです。処理前に不要な低域・高域成分を除去するために使われます。マイクのポップをコントロールするのも便利です。
- 2 Dynamics:** Gate、Leveler、DeEsser、Compressor、Limiterの5つのダイナミックツールを組み合わせることで処理できます。すべてのセクションをオン/オフできるので、サウンドへの影響を集中して確認できます。
- 3 EQ:** バンドのオン/オフ、バンド周波数、ゲイン、Qを内蔵した4バンドEQです。カーブの種類は、バンドによってハイシェルフ、ローシェルフ、パラメトリック、ローパス、高・低域レゾナントシェルフを選択できます。マルチタッチ対応のため複数帯域を同時にコントロール可能です。

プラグインアイコンをクリックすると、単一プラグイン表示に戻ります。

プロセッシングの追加



より多くの(または特殊な)プロセッシングが必要な場合は、チャンネルにプラグインを追加できます。

チャンネルにプラグインを追加アサインするには、空のプラグインスロットの下向き矢印をクリックします。プラグインのアサインメニューが開きます。プラグインはカテゴリー別に分類されません。

メニューからプラグインを選択します。

プラグインがプラグインラックに、インターフェイスがプラグインペインに表示されます。各チャンネルで最大8つのプラグインをアサインできます。

この画像では、入力チャンネルによくインサートされる6 Floating-Band Dynamic EQを使用しています。

同様の手順でさらに**プラグインを追加**できます。

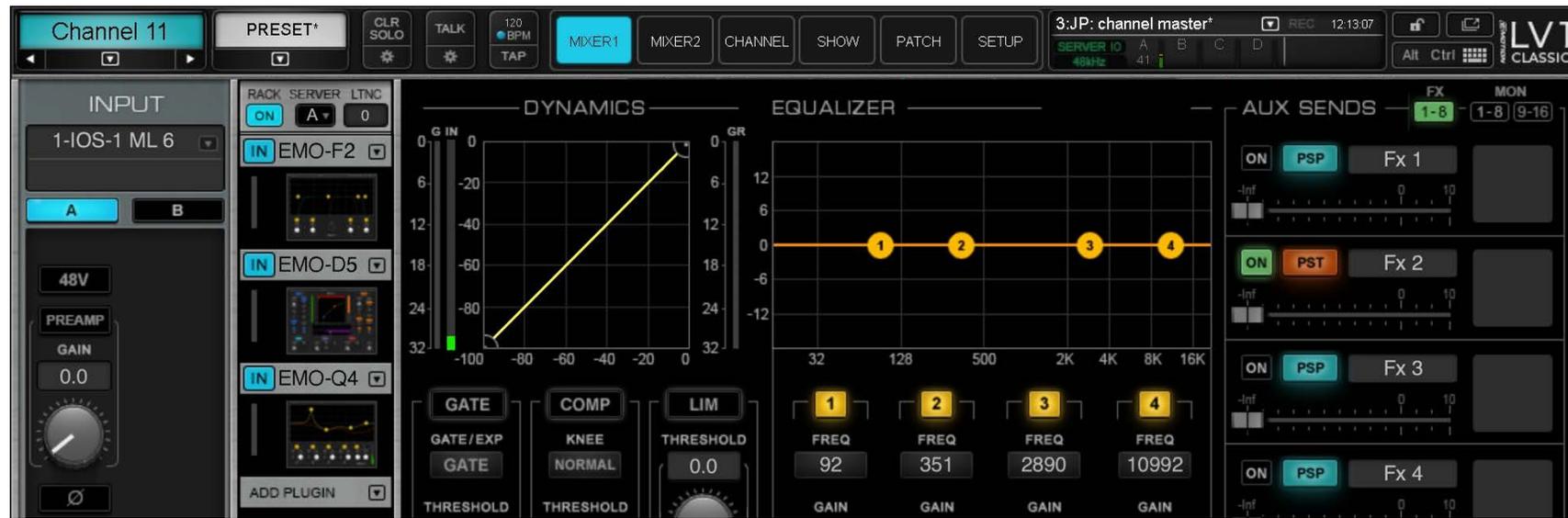
プラグインをラックで**上下にドラッグ**すると、チャンネル内におけるのシグナルフローの順番が変更されます。プラグインをインターフェイス外にドラッグするとラックから取り外せます。

GEQ Graphic Equalizerは、会場のマッチングやトーンシェーピングなどの用途であらゆる出力チャンネルに適用できます。

eMotion LV1 Classicにはライブサウンドでよく使われる15以上のプラグインを収録しています。追加プラグインはサブスクリプションと個別プラグイン/バンドルライセンスでご利用いただけます。詳細は[ウェブサイト](#)をご覧ください。

Auxセンドの設定と調整

チャンネルのシグナルは、FXまたはモニターのAux ミックスバスに送ることができます。



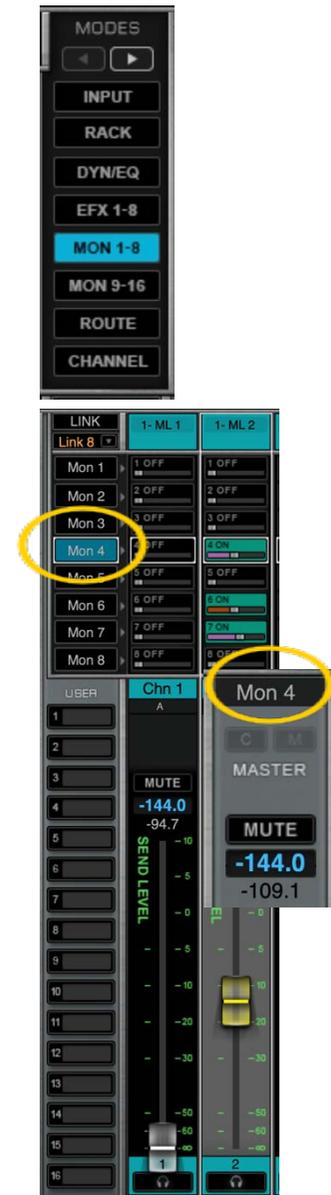
1. センド元のチャンネルを選択します(ここではチャンネル選択ボックスで示されたChannel 11)。
2. Channelウィンドウに移動します。
3. **Aux Sends** パネルはウインドウ右側にあります。このセクションでチャンネルをどのAux チャンネル(FXまたは MONバス)に送るかを決定します。
4. **Aux Channel**を選択、レベルを設定して**ソース** (PSP、PST、INP、PRE)を選択します。これをすべての Aux に対して繰り返します。

フェーダーでセンドを使用する

Aux センドレベルは、ラージフェーダーで調整することができます。センドにある小さなフェーダーを使用するよりも快適で正確なコントロールが可能です。

1. Mixerウィンドウで、Aux レイヤーの**Modes**(EFX 1-8、MON 1-8、MON 9-16)を選択します。
2. Channelを選択します(ここではChannel 1)。
3. どの Aux にセンドするかを選択します。左側 Sub Views セクションで、センドを調整したい Aux チャンネル名をクリックします(この例では Mon 4)。インターフェイスの色が変わり、チャンネルフェーダーが反転したことを示します。
4. 選択された Aux チャンネルの名称がマスターフェーダーの上に表示され(丸囲み内)、Aux バスのキューが選択されます。
5. ラージフェーダーを使ってレイヤー内の全チャンネルのセンドレベルを調整できます。
6. Master フェーダーも Aux 出力にマップされ、フェーダー上にバス名が表示されます。Master フェーダーで Aux バスの出力を調整できます。

フェーダー・バンクでFlipモードを選択することで、フェーダー上でセンドを使用することもできます。



入出力パッチングの変更

INPUTパッチの変更

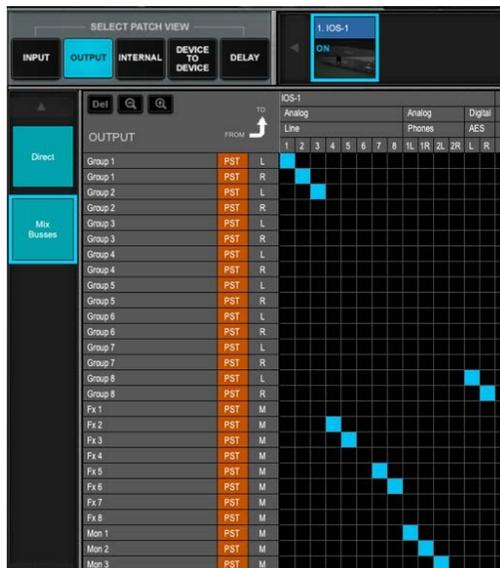
デフォルトでは、ミキサー入力=Inputチャンネル1~16には16個のWaves Signatureプリアンプ搭載のマイクおよびライン入力
が任意の組み合わせでパッチされています。



入力パッチングの変更は以下の手順で行います:

- 1) PAtchウィンドウを開きます。
- 2) Inputタブをクリックします。I/Oデバイスが上部に表示されます。
 - a) Classic I/Oが一番上に、その下にI/Oチャンネルが表示されます。
 - b) ミキサー入力チャンネルは左に表示されます。デフォルトでは、I/O Channel 1-16 がミキサーインプット 1-16 にパッチングされます。
- 3) パッチを作成するには対象のI/Oとチャンネル入力の交点をクリックします。複数の接続をパッチするにはドラッグしてラインを引いてください。

OUTPUTパッチの変更



デフォルトのeMotion LV1 Classic出力パッチングは以下の通りです:

Output 1-8: Matrix 1-8 Output 11-12: L/R
Output 9-10: Cue Phones 1-2: Cue

出力パッチングの変更は以下の手順で行います:

- 1) Patchウィンドウを開きます。
- 2) Outputタブをクリックします。
- 3) ミキサー出力を選択します:
 - a. ダイレクトチャンネルアウトプット: チャンネルウインドウで定義されたダイレクトアウトにパッチします。
 - b. ミックスバス: GRP、FX、MON、マトリックス、LR、センター、モノ、キューをパッチ。
- 4) パッチを作成するには対象の出力とI/Oチャンネルの交点をクリックします。

ステージボックスの追加

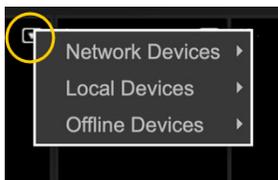
ステージボックスを追加することで、I/Oチャンネル数を増やしてステージ上での柔軟性が向上します。

eMotion LV1 Classicにステージボックスを追加は、以下の手順に行ってください:

ステージボックスをEtherCONコネクタに接続します。複数のステージボックスを使用する場合は、Classic Ethernetコネクタに接続した外部スイッチャーを使用します。Cat 5eまたはCat 6イーサネットケーブルを使用してください。接続後、ステージボックスの電源を入れます。

- 1) Setup window -> System Inventoryに進みます。
- 2) Auto-Config Startをクリックします。

Add(追加)を選択します。Auto-Config プロセスが終了すると、ステージボックスがインベントリに表示されます。ステージボックスとのパッチングはLV1チャンネル17から始まります。Auto-Configユーティリティでステージボックスが見つからない場合は、イーサネットケーブルがしっかりと固定されていない可能性があります。ケーブルの両端を接続し直して、再度お試しください。



デバイスを手動で追加するには、空のラックスロットの下向き矢印をクリックし、リストから希望のデバイスを選択します。ラックにI/Oボックスが表示されます。その他の詳細設定については、eMotion LV1ユーザーガイドを参照してください。

セッションとシーン(スナップショット)の管理



Sessionページ



Sceneページ

Sessionとは、現在のミキサーの状態全体したものです。設定によっては、eMotion LV1 Classicを起動した時に最新のセッションが自動的にロードされます。シーンは特定のイベントのスナップショットで、曲や曲のセクションによく使われます。通常、セッションには多くのシーンがあります。セッションとシーンの管理、セッションのロード、シーンの呼び出しはここ、またはトッパーから行います。

セッションを作成または変更する:

1. **Show** ウィンドウに移動し、**Sessions** タブを選択します。
2. **New** をクリックします。ミキサー条件全体が新しいファイルとして保存されます。
3. 既存のセッションを現在のミキサーの状態に更新し、選択したセッションを上書きするには、**Save** をクリックします。
4. **Load** を押して、**Scenes** リストからシーンを開きます。

セッションはトッパーのプリセットメニューからも保存、読み込みが可能です。

シーンを作成または修正する:

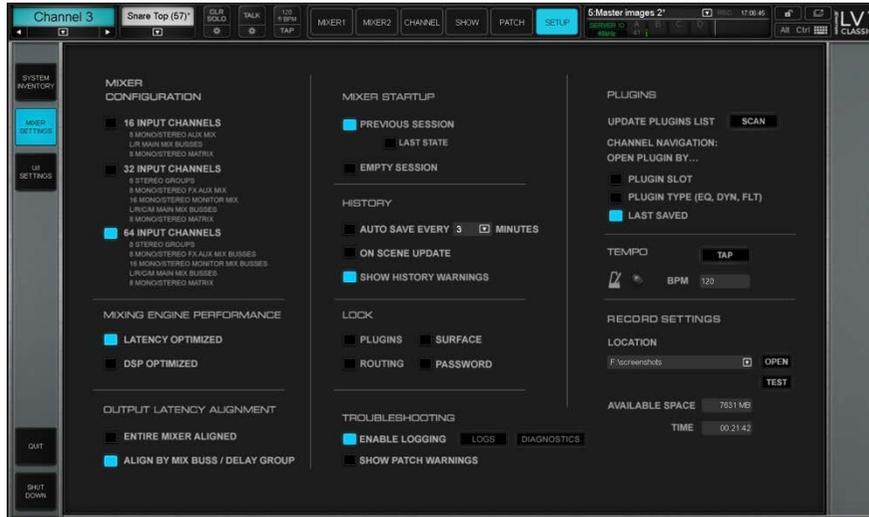
1. **Show** ウィンドウに移動し、**Scenes** タブを選択します。
2. **New** はゼロから新しいシーンを作成、**Store** は既存のシーンの変更、**Recall** は選択したシーンをロードします。
3. **Scope** パネルを使用して、シーンがリコールされたときに変更されるミキサーの要素を定義します。**Recall Safe** はシーンの変更時に選択されたチャンネル、バス、プロセスが変更されるのを防ぎます。

セッションはトッパーのScenesメニューからも保存、呼び出しが可能です。

ミキサーのカスタマイズ

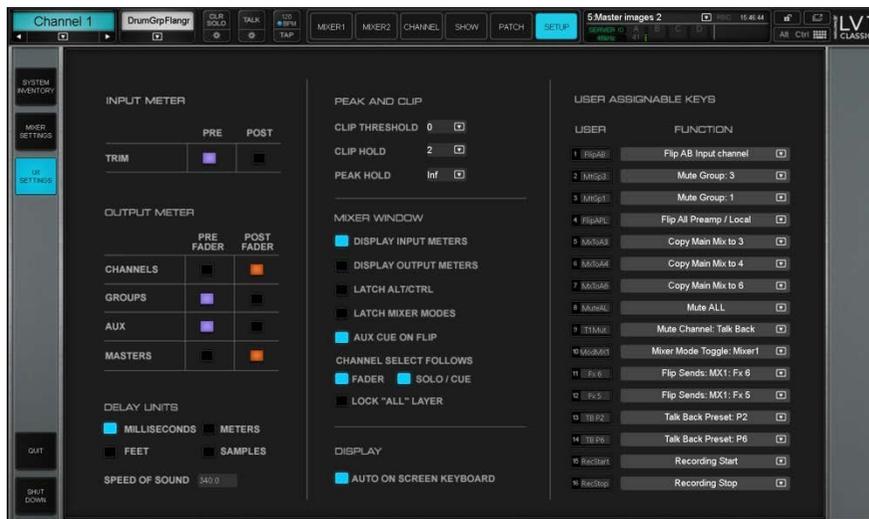
ミキサーの動作はカスタマイズしてインターフェイスの使用をパーソナライズすることができます。

MIXER SETTINGS



- ミキサーの設定
- レイテンシー動作の選択
- 起動条件とロックルールの設定
- プラグイン動作とテンポの設定
- トラブルシューティングほか

U/I SETTINGS



- メーターのカスタマイズ(入力トリムのPre/Post と出力メーターのプリ/ポスト選択)
- 簡易な計算のためのディレイ単位と現在の音速を設定
- Mixerウィンドウと表示動作の設定
- ユーザー割当て可能な16のキー機能の設定

さらに詳しく

ご不明点につきましては、下記リンクよりWavesウェブサイトのPDFユーザーガイド、英語をご参照ください。QRコードをスキャンしてモバイルデバイスにファイルをダウンロードいただくこともできます。

[eMotion LV1 ユーザーガイド](#)



eMotion LV1 ミキサーを網羅したリファレンスガイドです。

[サポート記事](#)



サポート記事には、アップデート、ナレッジベース、リリースノートなどが含まれます。

[eMotion LV1 Classic ランディングページ](#)



LV1のトレーニング、フォーラム、LV1チームへの問い合わせはこちらよりご覧ください。

主な仕様と特徴

ミキサーエンジン	サンプルレート	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
	ビットデプス	倍精度32ビット浮動小数点
	レイテンシー	最小0.8 ms
	プロセッシング	IntelベースDSPエンジン(Waves Extreme Server相当)
ミキシング仕様	入力チャンネル	モノ/ステレオ64チャンネル+トークバック
	バス	44モノ/ステレオ・ミックス・バス
	マスター	ステレオ/センター/モノ/キュー
	グループ	モノ/ステレオ 8
	AUX	24モノ/ステレオ(8 EFX / 16 Mon)
	マトリックス	モノ/ステレオ 8
I/Oと周辺機器の接続	アナログ入力	16 Waves Signature プリアンプ(マイク/ライン入力)
	アナログ出力	12ライン出力
	AES入力	1 ステレオ SRC搭載
	AES出力	2 ステレオ
	H/P出力	1 ステレオH/P出力(TRSおよびミニジャックコネクター)
	HDMI	外部セカンドモニター用HDMI
	USBポート	トップ 2口、リア 6口
	SoundGridポート	1Gbitイーサネットスイッチ(etherCON ×2/RJ45×2ポート)
	ランプ	XLR4 12V
	ネットワーク/Wi-Fi	インターネット/Wi-Fiルーター用セカンダリネットワークポート
	冗長電源	デュアル・パワー・インレット
ユーザーインターフェイス	ディスプレイ	21.5インチ マルチタッチスクリーン

		最大1000 Nitの明るさにコントロール可能、低照度や屋外での使用に対応
	フェーダー	16+1 100mmモーターフェーダー
	マルチファンクション コントロール	16+1精密エンコーダー、ミニ・ディスプレイ(パラメーター・コントロールとチャンネル・メーター用)、セレクト、ミュート、ソロ・キー。 16のレイヤーとユーティリティ・キー+テンポ・パッド。
	カスタマイズ	コントロール機能をパーソナライズするための16+2ユーザー割り当て可能キー
プロセッシング	インサート	8スロットのプロセッシング・ラックで、各入力チャンネル+全ミックス・チャンネルに8つのプラグインをホスト
		Waves SuperRackと完全互換のチャンネル・プロセッシング・プリセット
	コンソール収録プラグイン	Live Vocal Pitch Correction: Waves Tune Real-Time
		EQ: Waves eMo Q4 4-band equalizer
		EQ: Waves GEQ 30-band graphic equalizer
		Dynamics: Waves eMo D5 Dynamics
		Dynamics: Renaissance Compressor
		Dynamic EQ: Waves F6 Dynamic EQ
		Filtering: Waves eMo F2 HP/LP Filters
		Feedback Elimination: Waves X-FDBK
		Mic Bleed Elimination: Waves PSE
		Low End Control: Renaissance Bass
		Effects: H-Delay Hybrid Delay
		Effects: Doubler
		Effects: Renaissance Reverb
Effects: TrueVerb		
Effects and Amp Simulation: Waves GTR3		
Analog Simulation: Magma Tubes Channel Strip		

		Tools: eMo Generator signal generator
		Tools: External Insert アウトボード機器を接続可能
	オプションプラグイン (別売)	膨大なWavesカタログから150以上のライブ対応プラグインを追加可能
Immersive In-Ear Mixing	Waves eMo IEMプラグイン (別売)	eMotion LV1 Classicとシームレスに統合するeMo IEMプラグイン: イマーシブ・インイヤーミキシングのためのソフトウェアソリューション
Dugan Auto-Mixing	Dugan Speechプラグイン (別売)	Dugan SpeechプラグインをeMotion LV1 Classicと統合、複数のマイクを自動ミキシング
シーン		1000のシーンが利用可能
		リコール・セーフ・フィルター
		シーンリコールスコープフィルター
		MIDIによる外部コントロール
		Waves mRecallモバイルアプリケーションによる外部コントロール
		シーンごとのグローバル・テンポ・コントロール
入力チャンネル機能		素早くパッチを変更できるA/B入力オプション
		デジタル制御のプリアンプ
		プリアンプ共有リアルタイム・ゲイン・トラッキング・ローカルVゲイン
		入力ディレイライン
ミックス・チャンネルと出力機能		内部ミックスバスの自動ディレイ補正
		チャンネルごとに複数の出力が可能、各出力はデジタル・トリム付き
		フルミキサーアライメントまたはディレイグループアライメントによる出力タイミングの最大コントロール
		出力接続ごとのディレイ・オプション
その他のミキシング機能		2つのミキサーレイアウト・ウィンドウを備えるタッチベースのインターフェイス(最大8レイヤー/16チャンネル・ストリップ)
		独自カスタムレイヤー作成し素早くパーソナライズされたワークフローを実現

		チャンネルのカスタムカラー設定
		チャンネル名、プロセッシング、ルーティングのコピー&ペースト
		タッチ操作の自動オンスクリーンキーボード
		ミキサーウィンドウごとに各24 Auxバスセンドのオンフェーダーモード (Auxのオートキュー/オプションでミックスバスをフェーダーコントロール可能)
		DCA Spill: DCAにリンクしたチャンネルをレイヤーに組み込み可能
		Channel Mainビューで、MixerおよびChannel両ウィンドウ、チャンネルのパラメータを素早く統合的にコントロール
		デバイスと内部ルーティングのパッチマトリックスウィンドウ
		16リンク・コントロール・グループ、グループごとのDCAフェーダー
		8つのミュートグループ、出力のMute Allオプション
		メインツールバーでタップテンポが使用可能
		包括的なメーターとクリップ設定
		プラグインのインスタンス、外部ルーティング、完全なサーフェスロックをロックするためのロックオプションの表示
		ソロインプレイス・オプション(自動ソロセーフソースとデスティネーション)
オフラインセッション編集		eMotion LV1 Offline Editor(無償): LV1セッションをオフラインで事前準備。
リモコン	Waves MyFOHアプリ	eMotion LV1用リモコンアプリ(タブレット)
	Waves MyMonアプリ	LV1用パーソナルモニターミキシングアプリ(モバイル/タブレット): 最大16ユーザ対応
	Waves mRecall	シーン呼び出し用リモコンアプリ(モバイル/タブレット)
	Waves MixTwinアプリ	ミキサーとプラグインのフルコントロール(タブレット)
録音と再生		16モノ/8ステレオチャンネルを外付けUSBドライブにレコーディング可能
		外付けUSBドライブからのステレオ再生

		外部コンピューターを接続して最大128チャンネルを録音・再生可能
ステージボックス拡張	Waves IONIC 16	16 Waves Signature プリアンプ / 12ライン出力
	Waves IONIC 24	24 Waves Signature プリアンプ / 18ライン出力
拡張	入出力	最大14のハードウェア/ソフトウェアSoundGrid I/Oを追加可能
		SoundGrid ASIO/Core Driverを使用して、互換性のあるPCやMacを再生/録音デバイスとして使用可能
		MADI-to-SoundGrid変換デバイスは、同軸およびオプティカルMADI拡張に利用可能。詳しくは https://www.waves.com/hardware 。
		64チャンネルのDante拡張用にDante-to-Soundgrid変換デバイスが用意されています。詳しくは https://www.waves.com/hardware 。
		多彩なSoundGrid対応デバイスとサードパーティ製拡張カードでアナログ/デジタルI/Oを追加可能
	複数のeMotion LV1 Classicコンソール間でI/Oを共有し、ミキサーごとにゲインコントロールが可能	
	SoundGridサーバー	最大3台のSoundGridサーバーを追加、実質無制限のプラグイン処理を実現
アクティブサーバーに最大4台までのバックアップ(冗長)サーバーを追加可能		
フェーダー	Waves FITフェーダーバンクで最大32+2フェーダーを追加	
技術仕様	マイク/ライン入力	入力ゲインを-3 dBから+60 dBまで1dBステップで調整可能(デフォルトは+20 dB)。各チャンネルにシグナルプレゼンスとクリップインジケータ
		周波数特性 +18 dBu入力
		±0.1 dB、20 Hz～20 kHz
		+/-1.0 dB、10 Hz～40 kHz
		ダイナミック・レンジ: >110 dB(20 kHz BW、0 dBゲイン)
EIN -130dBu(ゲイン60dB、ソース0Ω、Aウェイト)		
THD+N -100 dB (997 Hz、+18 dBuソース、0 dBゲイン、20 kHz BW)		

		入力インピーダンス: XLR: 2k Ω /7k Ω 入力ごとに選択可能 TRS: 14.6k Ω
		入力感度: XLR: -33dBu \sim +27dBu、1dBステップで調整可能 TRS: -27dBu \sim +33dBu、1dBステップで調整可能
		CMRR: 50 dB(20 Hz \sim 1 kHz、ゲイン0 dB)
		クロストーク: > 90 dB(20 Hz \sim 20 kHz、+27 dBu入力、0 dBゲイン)
		48Vファンタム電源 入力ごとに切り替え可能
		ハーモニック・エンハンサー 入力ごとに切り替え可能
		最大出力レベル+18 dBuまたは24 dBu 出力ごとに切り替え可能
ライン出力	周波数特性: \pm 0.1 dB、20 Hz \sim 20 kHz @ 48 kHz SR +0.1 / -1.0 dB、10 Hz \sim 40 kHz @ 96 kHz SR	
	THD+N: -100 dB@+24dBu、-105 dB@+18dBu(997Hz、20 kHz BW)	
	クロストーク < 90 dB(20 Hz \sim 20 kHz)	
	残留出力ノイズ: -87 dBu(A-weighted)	
	出力インピーダンス: 150 Ω	
	調整可能な出力ゲイン	
ヘッドフォン出力	周波数特性: \pm 0.1 dB、20 Hz \sim 20 kHz @ 48 kHz SR +0.1/-1.0 dB、10 Hz \sim 40 kHz @ 96 kHz SR	
	THD+N: -80 dB(3V@30 Ω 負荷、997 Hz、20 kHz BW)	
	出力インピーダンス: 20 Ω	
	対応サンプルレート: 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz 入力はサンプルレート変換機能(SRC)あり	
AES3	入出力インピーダンス: 110 Ω	

	動作温度		0-35°C / 32-95°F
	電源		2x 100 V-240 Vオート・スイッチングPSU(入力フィルタおよびスイッチ付き)
寸法	コンソール (net)	W	22" / 560 mm
		H	15.8" / 402 mm
		D	22.1" / 561 mm
	外箱 (net)	W	28.2" / 715 mm
		H	22.8" / 580 mm
		D	29.1" / 740 mm
重量	コンソール		38 lbs. / 17.3 kg
	輸送重量		段ボールパッケージ(付属品を含む): 14.3 lbs / 6.5 kg コンソールを含むトータルパッケージ: 53.9 lbs / 24.5 kg